



JUNIOR WORLD ORIENTEERING CHAMPIONSHIPS CZECH REPUBLIC

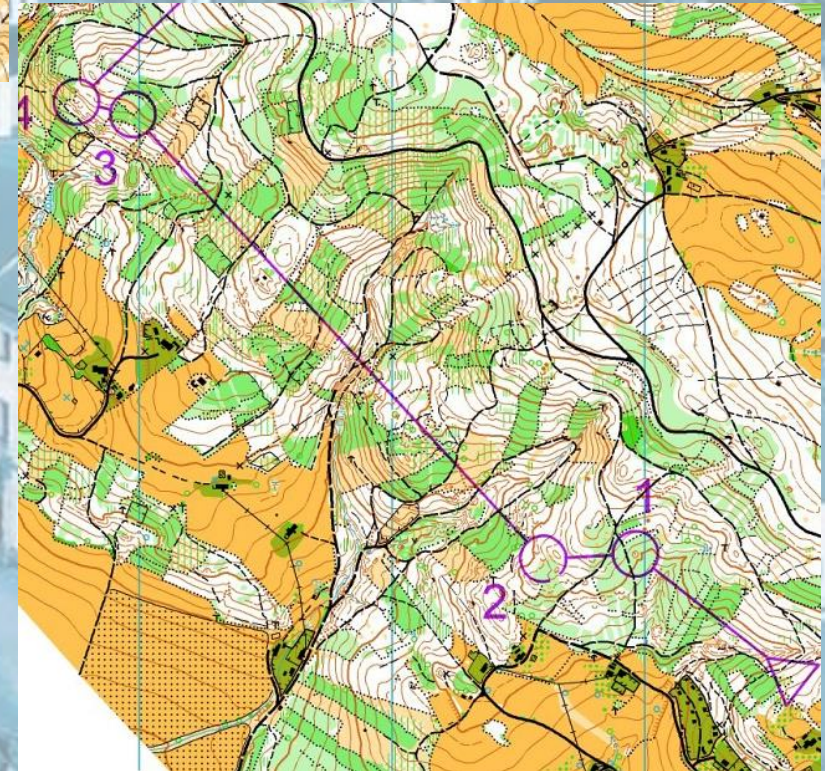
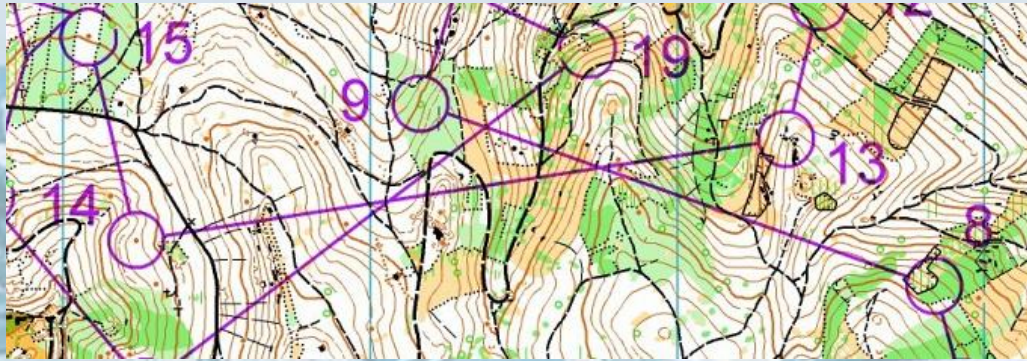
Hradec Králové / 30.6. – 7.7.2013

Japan Team 報告



- Long種目
- Middle種目予選
- Middle種目決勝
- Sprint種目
- Relay種目
- 総括

Long種目 (1)



- ・険しい斜面
- ・発達した道のネットワーク
- ・明瞭な植生

→総じて難易度が低く、ルートチョイスと体力が求められる。

Long種目 (2)



M20

1位	Parfianowicz Piotr (POL)	69:21
76位	宮西優太郎	85:01
112位	杉村俊輔	91:48
124位	佐藤雄太郎	94:03
128位	深田恒	95:01
137位	田中基士	100:42
155位	浜宇津佑亮	117:02

W20

1位	Risby Lisa (SWE)	60:42
66位	稲毛日菜子	77:00
87位	山岸夏希	82:31
121位	守屋舞香	92:49
131位	伊東瑠実子	99:42
133位	宮川早穂	104:36



・宮西選手がトップ比122.3%、稲毛選手も同126.9%の好タイム。ともに全選手の真ん中よりも上という快挙。
→ロングは日本人でも通用しやすい種目と言えそう。

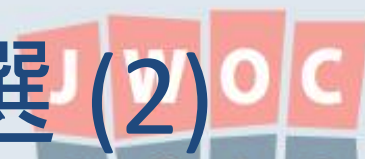
Middle種目予選 (1)

JWOC
2013



- ・選手の身長より大きい岩や地図に表記されない岩も
 - ・岩の裏や間に置かれ、難しいコントロール位置
- 非常に高い精度のナビゲーションが求められる。
海外選手にさえも難易度高く、「大荒れ」の予選に

Middle種目予選 (2)



男子A組

1	Zernis Rudolfs	Latvia	21:54
20	Niemi Aleks	Finland	25:20
40	Batin Ryan	New Zealand	29:34
56	Miyanishi Yutaro	Japan	38:48
57	Hamauzu Yusuke	Japan	39:35

女子A組

1	Basset Isia	France	21:48
20	Poirot Delphine	France	26:59
40	Polzer Carina	Austria	33:51
46	Inagge Hinako	Japan	42:02
47	Moriya Maika	Japan	43:55

男子B組

1	Huber Sindre Ronning	Norway	21:28
20	Fomiciov Ivan	Moldova	25:11
40	Copetchi Stefan	Romania	31:05
43	Fukada Wattaru	Japan	32:22
50	Sato Yutaro	Japan	36:54

女子B組

1	Risby Lisa	Sweden	22:32
20	Ambrazaitė Vesta	Lithuania	27:45
40	Moran Tamsin	Great Britain	35:37
43	Miyakawa Saho	Japan	36:44

男子C組

1	Norskov Thor	Denmark	21:22
20	Reiner Matthias	Austria	24:17
40	Razum Matija	Croatia	28:24
46	Sugimura Shunsuke	Japan	31:07
55	Tanaka Motoshi	Japan	50:14

女子C組

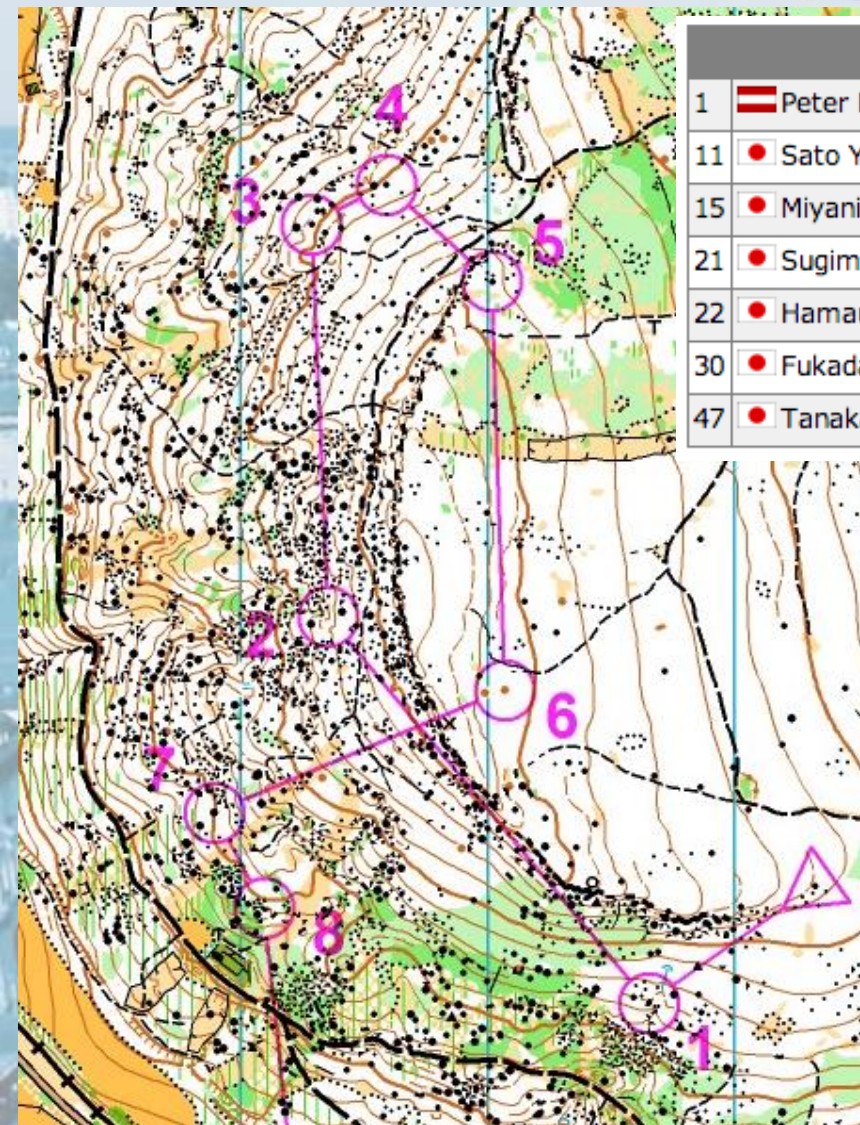
1	Butt Lucy	Great Britain	21:40
20	Muir Heather	Australia	28:05
40	Ozguler Yasemin	Turkey	36:34
46	Yamagishi Natsuki	Japan	41:57
47	Ito Rumiko	Japan	44:03



- ・男女ともにトップ比150%程度が最速で、B決勝にさえ進出を逃す。
- ・現地では重点的にトレーニングしたが、対応できるまでには至らず。
- キャリアの浅い選手の多い日本チームにミドル種目は難しい。

Middle種目決勝 (1:C決勝)

JWOC
2013



男子C決勝			
1		Peter Mathias	Austria 18:26
11		Sato Yutaro	Japan 21:58
15		Miyanishi Yutaro	Japan 22:58
21		Sugimura Shunsuke	Japan 24:34
22		Hamauzu Yusuke	Japan 25:08
30		Fukada Wataru	Japan 27:59
47		Tanaka Motoshi	Japan 37:53

女子C決勝			
1		Bigel Svetlana	Russia 18:23
2		Miyakawa Saho	Japan 18:54
7		Inage Hinako	Japan 20:03
22		Ito Rumiko	Japan 29:07
29		Moriya Maika	Japan 31:05
31		Yamagishi Natsuki	Japan 36:20

- ・男女ともに予選と比べ難易度の低いコース設定
- ・プレッシャーからも開放されたためか、レースをまとめられた選手が多かった。
- 予選で自分のレースができればB決勝は現実的な目標。A決勝は現状、無理をしないと不可能。

Middle種目 決勝 (2:A決勝)

男子A決勝				女子A決勝			
1	 Svensk Emil	Sweden	24:32	1	 Ødum Miri Thrane	Denmark	25:05
2	 Johansson Anton	Sweden	24:33	2	 Risby Lisa	Sweden	25:36
3	 Wängdahl Jens	Sweden	24:41	3	 Rundhaug Mathilde	Norway	25:45



- ・岩石地帯の中に多くのコントロールが置かれた非常に難易度の高いコース
- ・強豪国の選手でも立ち止まって周囲を見回してコントロールを探す様子がテレビ中継で見られた。
- ・男子はスウェーデンが10秒以内で1,2,3。女子も大接戦に。

Sprint種目 (1)



- ・前半は公園、後半は旧市街地。
- ・スピードの出る中でたまに立体交差や城壁のエリアのルートチョイスとナビゲーションが求められる。
- 難しいエリアで如何にスピードを落とし、ミスを抑えられるかが鍵

Sprint種目 (2)

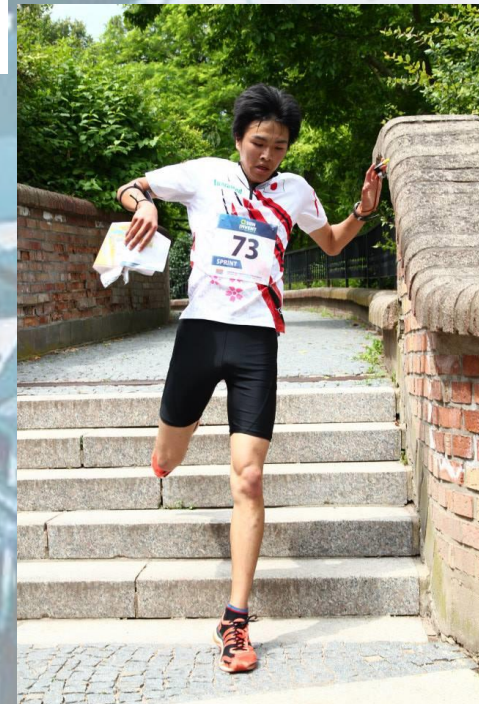


男子決勝

1	Schneider Florian	Switzerland	14:35
124	Miyanishi Yutaro	Japan	17:58
136	Sugimura Shunsuke	Japan	18:40
144	Fukada Wataru	Japan	19:06
150	Tanaka Motoshi	Japan	19:33
156	Sato Yutaro	Japan	20:14
157	Hamauzu Yusuke	Japan	20:40

女子決勝

1	Mårtensson Heidi	Norway	14:33
74	Inage Hinako	Japan	17:15
108	Yamagishi Natsuki	Japan	18:30
118	Miyakawa Saho	Japan	19:17
123	Ito Rumiko	Japan	19:33
132	Moriya Maika	Japan	20:15



- ・レース中盤以降の慣れない複雑な市街地などに苦戦。
- ・単純にスピードでも劣ってはいるが、国内で練習機会が少なく、フィジカルを出しきれなかった。
→もっと力を入れて国内で練習すれば、ロング同様に通用する種目となるのではないか？

Relay種目 (1)



- ・登高差のほとんど無いフラットなトレイン
 - ・複雑に入り組んだ植生
- 見通しのきかない植生の中で、他国の選手を使ってうまくナビゲーションできるか？
一度現在地がわからなくなると、復帰困難。

Relay種目 (2)



女子リレー(出走42チーム)

男子リレー(出走55チーム)

1	Czech Republic Knapová Lenka 36.23 Chromá Kateřina 34.07 Horčíčková Vendula 34.15	104.45
36	Japan1 Inage Hinako 37.07 Yamagishi Natsuki 64.44 Miyakawa Saho 52.27	154.18
-	Japan2 Moriya Maika 54.27 Ito Rumiko 65.16	-

1	Czech Republic Schuster Marek 36.00 Chloupek Adam 32.35 Hubáček Michal 35.53	104.28
46	Japan2 Fukada Wataru 39.21 Tanaka Motoshi 66.29 Hamauzu Yusuke 61.28	167.18
-	Japan1 Sugimura Shunsuke 43.37 Miyanishi Yutar 46.17 Sato Yutaro mp	DISQ

- ・第一走者の稲毛・深田が集団の中でレースをやりきり、日本人史上最高の好走。杉村も善戦。
- ・しかし、集団から遅れた2走以降では大きくペースダウン。一度遅れたら、強豪国(スウェーデンなど)でも挽回は不可能。
- 今後は集団でも難しいようなトレインでの練習が必要か？
- ・開催国のチェコが奇跡のアベック優勝！！！！

総括



- ・日本でも馴染みのあるようなテレインのロング種目では、日本人トップだけでなく、総じて好成績。近年常に二桁順位の選手が出ており、日本チームにとって、努力しがいのある種目と言える。
- ・外国人選手でさえ苦戦するようなミドル種目で、A決勝(上位1/3程度)に食い込むのは実現性低い。まずはB決勝に毎年残るところから。
- ・スプリント種目は昨年の中国チームが見せたように、練習次第でもっと通用しうる。練習の場をどう用意するかは課題。
- ・リレー種目で当面の目標は、最後まで他国と一緒に回り切ること。そのためには集団走の練習と、十分なフィジカルが必須。今年、実現の可能性は示された。